



佐賀県の「架け橋プログラム」が力強く発進！

～「第1回架け橋期の教育推進協議会」報告～

本県の架け橋期（義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生までの2年間）の教育の充実や推進を図るため、10月8日に佐賀県主催による「架け橋期の教育推進協議会」を県庁で開催しました。

佐賀県の取り組みについて、今年度の架け橋期のコーディネーターの配置について、そして県内市町、保育施設にご協力いただいた「県内の幼保小連携・接続の状況調査」の結果を基に熱心に協議されました。

「主体性を発揮する児童の姿の増加」や「登校渋りの児童の減少」の成果が期待でき、架け橋期を重視していかなければいけない。

市町においては、福祉部局と教育委員会が連携していく必要がある。所管が違って、子どもを育てるという点では同じ。

幼保小・行政の連携を深めていければ素晴らしい連携ができる。課題はたくさんあるので、そこでの架け橋期のコーディネーターの活用が考えられる。委員の皆さんでバックアップをしましょう。

小学校からが教育だと思われているが、乳幼児期から始まっている。教育委員会や校長先生の中には、乳幼児教育や10の姿を理解して下さる方たちもたくさんいらっしゃると思う。もっと架け橋プログラムを推進してほしい。

◇14名の協議会委員の皆さんです！

- 佐賀県市町教育長会連合会会長
- 佐賀県教育委員会教育事務所長会会長
- 佐賀県小中学校校長会副会長
- 佐賀県小学校教育研究会幼小連絡部会会長
- 佐賀県保育会会長
- 佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会会長

- 全国認定こども園協会佐賀県支部会長
- 国公立幼稚園・こども園会会長
- 佐賀大学准教授
- 西九州大学准教授
- 佐賀県保育幼児教育センター長（こども未来課課長）
- 佐賀県教育委員会事務局学校教育課参事
- 保育幼児教育センター（こども未来課）スーパーバイザー（2名）

R7.11月より
スタート！

「架け橋期のコーディネーター」をご活用ください！

各地域の幼保小接続・連携の取り組みがより推進されるよう、園・小学校・市町等からの依頼に応じて訪問し、幼保小連絡協議会や合同研修会、交流会などで一緒に考え、支援をします。



架け橋期のコーディネーターってどんな人？

架け橋期のコーディネーターは、保育及び教育に関する豊富な知見や経験を持ち、園長、校長などマネジメントの経験がある先生方です。



架け橋期のコーディネーターの役割は？

【例1】園内研修・校内研修のサポート、市町主催の協議会、合同研修会などでの助言

交流・連携の課題や研修・研究テーマなどについて、一緒に考えたりアドバイスしたりします。

【例2】相互参観（保育参観・小学校1年生の教育活動参観）とアドバイス

幼保小の先生方の相互参観の場に訪問させていただき、架け橋期の保育・教育や交流・連携について一緒に考えたりアドバイスしたりします。

【例3】協議会、合同研修会などのファシリテーター

まずは、佐賀県保育幼児教育センターへ気軽にご相談ください。



こどもたちの学びをつなげる幼保小接続の取り組み

～市町のリーダーシップで深まり、広がる架け橋期の教育～

佐賀県内では、長きにわたって市町のリーダーシップにより幼保小連携を推進している好事例がたくさんあります。今回は佐賀市の取組を紹介したいと思います。



「安心感をもち、意欲的に学んでいる子ども」に！《佐賀市の取り組みの紹介》



佐賀市の幼保小連携の取り組みは歴史が長く、平成17年から佐賀市が独自に作成された学びの接続期プログラム「えがおわくわく」をもとに「安心感をもち、意欲的に学んでいる子ども」を育てるために市全体で取り組まれています。

0歳から18歳まで貫くこどもの育ちや学びを視野に入れた取り組みということに目を見張るものがあります。

「えがおわくわく」の冊子には、新しい時代に求められるものとしてなぜ幼保小接続が必要なのか、育ちやつながりを意識した具体的なカリキュラムと実践例、園と小学校の交流のポイントなどが丁寧に解説されています。

小学校1年生の生活科での「砂遊び」の事例です。乳幼児期での学びを踏まえた指導方法で、こどもたちが自分の思いや願いをもとに工夫をしていく姿が分かりやすく記載されています。



令和2年度版(第8版)「えがおわくわく」より

◆小学校の教師と園の保育者との様々な交流《接続期プログラム「えがおわくわく」より》

保育者と教師で連携会議

・年間計画(交流計画、相互参観、研修計画)の立案・計画の打合せ・情報交換 等



保育者の授業参観

園での学びが小学校でどのような学びにつながっているのか、保育者が授業を参観します。



教師の保育参観・保育体験

小学校の教師が園を訪問し、園の様子を参観したり、実際に保育の体験をします。



令和2年度版(第8版)「えがおわくわく」より

「園、小学校の先生方の相互参観」では、小学校の先生から「園のこどもの生活や遊びの様子から発達に合わせた手厚い保育がなされ、成長の様子を知ることができた」などの声がありました。1月には佐賀市内すべての園、小学校の幼保小連携をコーディネートする先生方を対象に研修会も予定されています。

佐賀市の「えがおわくわく」プログラムが当たり前のこととして現場で実施されていることに、長年にわたる積み重ねを強く感じました。



園での保育参観後、園、小学校の先生方、佐賀市保育幼稚園課、教育委員会などの関係者で意見交換 (南部保育園にて<10月27日>)